

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	教育指導課長 山崎 敦史	電話番号	0852-22-5444
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	県立高校図書館教育推進事業		
目的	(1) 対象	県立高等学校の生徒、教職員	
	(2) 意図	学校図書館の充実と活性化を図り、読書をととして生徒の豊かな心を育むとともに、学校図書館を活用した教育を展開することにより、主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 全ての県立高校の学校図書館を「人のいる図書館」にし、学校図書館の機能充実と活性化を図るため、学校司書が配置されない小規模校に非常勤嘱託職員の司書を配置する。 学校図書館担当教職員のスキルアップのため、研修の支援を行う。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	図書貸出数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		6.00	6.50	6.50	7.00	
式・定義	司書配置事業対象校における生徒1人あたりの年間図書貸出数		実績値	5.40	6.00	5.70	5.70		冊
			達成率		100.00	87.70	87.70		%
指標名	学校図書館を活用した授業の広がり		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		5.50	6.00	6.20	6.50	
式・定義	司書配置事業対象校において、1年間に学校図書館を活用した授業を行った教科数		実績値	4.80	5.30	5.80	6.20		教科
			達成率		96.40	96.70	100.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	28,655	33,905
うち一般財源 (千円)	28,092	33,905

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・図書貸出数は、事業開始前年の平成22年度と比べると4.3冊から5.7冊と増えており、司書配置の効果が出ている。しかし、司書配置により「人のいる図書館」が当然のこととなった時点から貸出数の伸びが止まっている。各高校別に見ると貸出数を伸ばしている学校もあり、学校としての取組によって差が出ていると考えられる。
 ・学校図書館を活用した授業の広がりは、順調に教科数が増えている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・この事業により司書が配置された高校はいずれも小規模校であり、大半が中山間離島地域にある。専門職員による図書館の整備や貸出業務、他校や公立図書館との相互貸借等が進んだことにより、生徒や教職員への資料提供や授業支援における地域のハンディをうめる一助となっている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・すべての県立高校（本校）に「人のいる図書館」は実現したが、学校図書館の活用状況、校内体制は学校間の差が大きく、学校図書館を活用した教育についての認知度がまだ低い。
 ・非常勤嘱託職員の学校司書は、立場が不安定であり、正規司書との職能差が大きい。

②困っている状況が発生している「原因」

・学校の協力体制が十分ではなく、高校教員に学校図書館を活用した授業のイメージが少ない。
 ・一人職の学校司書の職能形成の方法が確立されていない。

③原因を解消するための「課題」

・学校での協力体制を構築し、学校図書館を活用した授業のイメージを職員で共有する。
 ・学校司書の職能を形成する支援を行う。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・校内での体制づくりが必要であるため、中・高等学校図書館活用研修を行い、司書教諭など学校図書館教育に係る教員が校内体制として学校図書館活用教育を推進できるようにする。
 ・上記の研修他、各種研修会等で小中学校で行われている学校図書館を活用した授業を紹介し、高校でのスキルアップやレベルアップをした授業のイメージを共有できるように研修を行う。さらに図書資料等とICTの活用により、高校での活用型の授業のイメージを共有することを目指す。
 ・学校司書の職能の向上が必要であるため、「勤務経験5年目以下の学校司書への研修支援」や「学校司書経験3年以下の学校司書の求めに応じて、支援員として委嘱した学校司書が訪問等により指導助言」などを実施し人材育成を図る。校内で一人職の学校司書を支えることで、学校図書館の活性化を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）